天野雅久 先生

私は2004年に愛知医大を卒業し，後期研修から地域医療振興協会に所属しています。後期研修の1年目は，ここ石岡第一病院で一般内科を研修し，2年目は神津島の診療所に半年間，その後アメリカオレゴン州にあるオレゴン健康科学大学（OHSU）の家庭医療科で3ヵ月間研修しました。そして残り1年3ヵ月の後期研修を再び石岡第一病院ですることに決めました。石岡市には周囲に大きな病院がないためさまざまな患者さんが受診し，内科が専門分化されていない環境で幅広く内科を学びたかったので，とても勉強になります。夜間は１人で全科当直になるため，内科以外の疾病に触れる機会も多く，守備範囲としてはOHSUの家庭医療科での研修を思い出します。神津島の診療所での研修の際にも，役立つことが多かったように思います。何よりも病院内の雰囲気がとてもよく，また新病院となり，ますます働きやすくなったと感じています。

中島瑠美子 先生

天野先生と同じ愛知医大出身で，熱海にある病院で2年間初期研修を受けた後，天野先生から石岡第一病院のことを聞いて，後期研修はここを選びました。この1年間は初期研修で学び足りなかった総合的な内科の知識を身につけながら，プライマリ･ケアに進むのか，内科の専門科に進むか，自分の中で見極めたいと思っています。

寺澤富久恵 先生

私は2005年に筑波大学を卒業しました．私にとってのキーワードは「地域への貢献」です。初期研修は，県立中央病院の総合診療科の上司が自治医大の卒業生でとても魅力的なドクターだったので，その下で働きたいと思ってそこに入りました。2年間のスーパーローテーションはいろいろな大学の方がいたので刺激になりましたね。3年目は総合診療科のフィックスレジデントとして2.5次救急や精神科や老健から送られてきた患者さんを診療したりしましたが，外来や

往診の研修をもっと受けたいと考えて，4年目は石岡第一病院に出向させていただきました。ここでは毎日初診外来と継続外来があって，たくさんの患者さんを診る機会があるので勉強になっています。一つの所にいると同じような考え方になりがちですが，いろいろなところから研修医が集まって来るというのは多様な価値観に触れられていいですね。ここでは「患者さんのために仕事をするって，こんなに気持ちのいいことなんだ」と感じています。将来は，やはり女性医師として難しい部分もあると思いますが，「地域への貢献」を頭に置いて，その時その時に自分のできる範囲内で求められる仕事をしていきたいと思っています。